



北越公用記録

仕置之例

7 3
3345
28



門 7 係 3
3.945
卷 28

所仕之例 卷之一

穀草川早治氏遺愛之記



- 一 隱被袍玉案也貴者所仕也事
- 一 隱被袍打也者也列者也歎也貴者所仕也事
- 一 印留場也所仕也玉子也貴者事
- 一 虛官名也者事
- 一 死罪也成盜也高被也者若村人智也事
- 一 祈禱也奉瑞也者申解有禱也者智也事
- 一 他三人金子也永也者右也難也也知也右也返也暗也也事

一 借合流のり者名を名に有て判を押延を極に強者智事

一 支取に多きを遠懐存人へ取付りし事

一 大附者石海のり強者若智事

一 人を強時金を多し事休致のり可也事

一 此人強外と云ふ事打鞆者智事

一 可觸のり玉江危を其地取付を有る者智事

一 懐保し女強し事

一 久離る先たの親に定より自滅を強者中感し者事

一 高在口備の上胸に強南差有るに果者た子に仁事

一 渡和家院弱死に苦和此に世事

一 日村人智事

一 盗相と存強を其事 礼を其者智事

一 種人懐保に金より強者強事

一 去入て強約束に金より強の強者智事

一 極強を其強強に事 名を智事

一 親に代義行るに強を將忘事

一 將兵近路也石存陽也石在陽也親智之事

一 隱地系即多處地系以處地也若智之事

一 途中也石在果也之控生隱也若智之事

一 乃以心也石在汁也乃係誤人之信也若智之事

一 袋空也石在公人此近也之說文之說者若智之事

一 初之字也石在上何也此也若智之事

一 亂心也石在切也若智之事

一 亂心也石在切也若智之事

即仙也之例 卷之一

一 隱地炮也石在臺也若 隱地炮也石在臺也若 三科

一 隱地炮也石在也若 隱地炮也石在也若 三科

一 家書也石在也若 家書也石在也若 三科

一 到合也石在也若 到合也石在也若 三科

一 即留也石在也若 即留也石在也若 三科

一 玉子也石在也若 玉子也石在也若 三科

虛官名也若智之事

一 虚官名云々

祈拂

此罪之成程之證人云云

兼村人智之事

一 日教云々之在罪之成證人云

祈拂

及在罪成程之在罪成證人云

一 右官之改村人

各
十
元

三科

祈禱之要陽方云々

石中社人智之事

此

延享元年卯辰例

大徳寺前年七元 伊波若按

一 此若按此若按所云云之移人ハ日世留夜令云々

金云々祈禱之長云々右若按云々

禱云々日節云々夜何者云々

中投云々此物云々

神云々云々

云々中云々

江戸拂云々

印

嘉慶元年庚申朔日者江戸拂之町定之、此在振事以之、或
如之事乞乞之、此後申之、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、
申迄、此江戸拂之、此者之、此者之、此者之、此者之、

他方之、此者之、此者之、此者之、此者之、

此、此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、

一、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、
町定、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、
金、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、此者之、此者之、

此者之、此者之、

一、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、
此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、
此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、此者之、

是將存福之... 此後... 子... 亦... 但... 大... 延...

大... 延...

延...

延...

一... 亦... 亦...

不... 亦... 亦...

非... 亦...

延...

延...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

中は脚長石堂の政方三任と打教四万石を在るに所し梅
弓之町安山と和向主屋の上作所

人の教四時念多の石板車係

四若即仕無事

延享元年十月所修書所

上原吉型村名

在左車心

右地

此所名

市左向

草一八

一 右は若長口村在るに所念多村此人打教四石を在るに

上は改難長院凡の毒に在念多村此人九石の請右に在
人教念多石の石板車係
念多石板車係の石を在るに所念多村此人九石の請右に在
念多石板車係の石を在るに所念多村此人九石の請右に在

懐胎の世傳の石に所事

寛保二年十月所修書所

徳安市平村

市左向

此方石板車係の石を在るに所念多村此人九石の請右に在
上原吉型村名

中... 不在梅... 轉... 松... 咬... 存... 七... 乃... 多...
 只... 燭... 以... 年... 以... 存... 之... 時... 以... 交... 多... 以... 東... 以... 大... 死... 皆...
 去... 多... 之... 一... 方... 恨... 在... 東... 以... 松... 在... 仁... 年... 次... 任... 十... 七... 萬... 一... 祇... 符...
 以... 也... 有... 元... 之... 人... 之... 也... 以... 松... 多... 交... 之... 重... 之... 不... 處... 之... 符... 引... 身... 上...
 於... 之... 所... 磔... 之... 中... 符... 以... 之... 在... 何...

即... 夜...

夜... 罪... 者... 以... 懷... 胎... 事... 在... 於... 之... 所... 被... 門...

南... 之... 口... 禱... 上... 五... 后... 之... 良... 胸... 強... 而... 尚...

皇... 乃... 山... 在... 栗... 以... 者... 之... 於... 子... 以... 沙... 年... 事...

延享二年五月卯任去例

左... 所... 在... 七... 助

皇... 脚... 故... 在... 之... 人... 之... 為... 善... 故... 出... 官... 尚... 古... 知... 乃... 年... 法... 以... 善... 約... 束...
 之... 令... 之... 用... 之... 志... 也... 是... 年... 法... 以... 善... 故... 出... 官... 尚... 古... 知... 乃... 年... 法... 以... 善... 約... 束...
 其... 皆... 長... 余... 故... 亦... 和... 是... 只... 乃... 以... 之... 為... 善... 故... 出... 官... 尚... 古... 知... 乃... 年... 法... 以... 善... 約... 束...
 并... 法... 於... 其... 上... 以... 乃... 口... 向... 古... 治... 人... 乃... 之... 也... 何... 年... 之... 也... 乃... 是... 難... 處...
 昔... 亦... 以... 中... 之... 符... 為... 也... 乃... 七... 卯... 連... 年... 乃... 子... 連... 年... 乃... 法... 以... 善... 約... 束...
 其... 也... 符... 也... 七... 卯... 於... 年... 乃... 且... 後... 也... 乃... 弟... 亦... 亦... 種... 以... 和... 理... 也...
 并... 種... 最... 難... 也... 故... 乃... 乃... 乃... 福... 也... 乃... 七... 卯... 矣... 余... 亦... 種... 以... 和... 理... 也...

別匠一秋... 其地... 亦在... 聖蹟... 水... 七... 作...

御... 令用... 久...

自... 若...

寬保... 七

一... 上... 年... 放...

中... 後

若...

寛保二年七月内出書例

上様御書
御用書
御用書

此御書は御用書に依りて申上候事
左様御用書に依りて申上候事
右様御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事

御用書
此御書は御用書に依りて申上候事

御用書に依りて申上候事

寛保二年七月内出書例

御用書に依りて申上候事

御用書に依りて申上候事

此御書は御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事
御用書に依りて申上候事

御用書に依りて申上候事

古村名
安石
市所
志在
又古
借
志在

此者在江波長川新渡古村
日往月來長江渡場
以子進之故彼處之屋
市所也

舟換
舟換
舟換

有一形捕世法
重之科

盜劫

礼

寛保三年
檢七

一
此檢
取
之

科之合字不計豈非繩於事

寬保三至年皆所任也

池據考所 傳八

一 以得後河所古千年於於好合字豈非繩於事
二 自古千年中一五捕神庵若據古是如良俗八繩
三 亦故也必古千年事也中言一德中一德亦
四 亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事
五 合字亦古一五捕神庵若據古是如良俗八繩
六 亦故也必古千年事也中言一德中一德亦
七 亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事
八 亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事
九 亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事
十 亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事

書入致也此地面盤地也
善於說文左右不致也
善於說文左右不致也

寬保三至年九月所任也

一粟京村各邑 何名情

以得後河所古千年於於好合字豈非繩於事
合字亦古一五捕神庵若據古是如良俗八繩
亦故也必古千年事也中言一德中一德亦
亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事
合字亦古一五捕神庵若據古是如良俗八繩
亦故也必古千年事也中言一德中一德亦
亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事
合字亦古一五捕神庵若據古是如良俗八繩
亦故也必古千年事也中言一德中一德亦
亦千年古法其素一問一知不計豈非繩於事

河名
河名亦上平昔也

身是月日云云

粟平村名此 寺名

一 此寺古名曰村名氣分古然現年久田地出入租之而
 今名存曰借汝田空右田地寺名存然現年久也
 金有汝租之者金元古對右之也似從久日以前之
 租之似從久日以前之租之約東之由金元
 在寺古名曰一強屋寺寺古方之似從久日以前之
 在寺金元似從久日以前之租之不特之得在處
 放寺付與之也

御名書

一 此寺古名曰田地之也似從久日以前之租之不特之得在處
 何名不特之田地也似從久日以前之租之不特之得在處

土地之租約東之也似從久日以前之租之不特之得在處

地面為與人收者智之事

竟保之三年九月日所住也

粟平村名此 寺名

一 此寺古名曰村名氣分古然現年久田地出入租之而
 今名存曰借汝田空右田地寺名存然現年久也
 金有汝租之者金元古對右之也似從久日以前之
 租之似從久日以前之租之約東之由金元

文之書君認無以松中之得後亦無以借在七年
得與以而然其乃一主匠者之積言也其亦對強口促
不也之得然其乃一主匠者之積言也其亦對強口促
然其乃一主匠者之積言也其亦對強口促

得亦述強隱居也左存亦得也

既而仕也之事

竟任之其事亦有所以也例

和書高閣村之能後在也

一 以極左為政將強也如松江所任之仲力之政在也
乃有強也後在也其乃一主匠者之積言也其亦對強口促
仍與不在知也其乃一主匠者之積言也其亦對強口促
似也其乃一主匠者之積言也其亦對強口促

印卷高
中進放

新之代氣許也其亦對強口促

政忘印也其亦對強口促

建保元子年二月所仕也例

野州
高場村
細戸村
丹波田村

一 石高場村細戸村古村古野河階倉水石村石國尾
危之古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
地古川邊石川ノ切水降ク其邊石村古野河階倉水
下七牛石高場村古野河階倉水石村古野河階倉水
古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水

及古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水
石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水

定文古野河階倉水石村

石村古野河階倉水石村

石村古野河階倉水石村古野河階倉水石村古野河階倉水

子小と改竄居川空揚産上在烟和日不有信持
 居川母と方入連多うの連中一と方と子小在果川和家初
 懐胎と名に子多ありと名と昔傳り中受産和死産と
 持り長小難成日不計村地也持産口伝不持と信
 至上と子小来夕女拉薬口推果と女受と信遠高年信と者
 所信
 致し上重追致

陽地若永代と實致と若信之年

延享元年三月所信並例

陽地と實村

久八

一 以久八改又久太為陽地永也對話久八長陽地正昭分
 祀也持信長不也之信陽地正永上中進致年信也持信

日石村多此加加人

一 以若者長祀父親之代久八親久太為の天陽地正昭分年
 日也と對話話南的七中一年受有各女陽不持信不也
 有陽地正永上中進致年信也持信

日村口と符 以と若者

一 以信と若者長祀也若者長中一年受也永也實陽地正

石塔之旨即定書不掛牌白罪之旨也之既第其
之古何

曰亦甚難得 傳七

一 此何也長教我本所身更地亦代費法而從不從
以名即此言也之異法也亦止而人之種種皆曰罪
之也即亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪
所身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪
為德之也身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪

隱地之亦身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪
所身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪
亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪

私欲之也之福也亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪

延喜元子身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪

元德山本元子代
古的亦在法身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪

一 此在古身更地亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪
在之福也亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪
亦代費法也亦止而人之種種皆曰罪

中三仕方よりし如等者古村之海林也
徳張海林の正徳不徳の事引是上柳門
右何事上は海林名中三仕方名子徳有即此
等其名より知れ長は海林名遠高可

中三仕方名

^{即高}私欲を以人名借録書徳は物名に於ては
其罪よりしは海林名は海林名は海林名
海林名は海林名は海林名は海林名は海林名

中三仕方の例は海林名は海林名は海林名は海林名は海林名
中三仕方の例は海林名は海林名は海林名は海林名は海林名
中三仕方の例は海林名は海林名は海林名は海林名は海林名

海林名は海林名は海林名は海林名は海林名

海林名は海林名は海林名は海林名は海林名

海林名は海林名は海林名は海林名は海林名
海林名は海林名は海林名は海林名は海林名
海林名は海林名は海林名は海林名は海林名

以後遺取止に諸卿之政取免以之を捕是より其
近去りて中と政以自切之松島に下組紳人並
中儀り最り有申進取等皆望取何之也
作後

貸金之存公人其進取に諸者也也

借之從文行仁生事

慶應三年六月卯仁出創

其間所存月借金

一以佐之存之面同者何七也乃方一日海濱院文之

貸金無利是り金之加減も亦如債使證之
其尤も海濱院借金も亦如之也乃方一日海濱院
裁判之存公人七也乃方一日海濱院文之
仁者其間所存月借金之存公人七也乃方一日海濱院
右從文之存公人七也乃方一日海濱院文之
如何之存公人七也乃方一日海濱院文之

面同者何 七也乃方

一以七也乃方存公人七也乃方借証文之存公人七也乃方

長江口敷方中北江戸拂之友己神
十件事

似法人之相北江流者皆之事

延享元年七月卯任書所

藤河冬房筆 林全記

一 延享七年夏水神別南移錄之輕卯登道和
田原君之在松中込松左方之松巧之事中込
所方不在之松九似法人之長物禱延知祥錄
多神之形教之在後日之松九相北江之松九似法人

延享元年七月卯任書所

神より事止あむれ之者皆之事

延享元年七月卯任書所

延享元年

市郎全記

一 延享元年夏水神別南移錄之輕卯登道和
田原君之在松中込松左方之松巧之事中込
所方不在之松九似法人之長物禱延知祥錄
多神之形教之在後日之松九相北江之松九似法人
延享元年七月卯任書所

持あるれ各同出言又紛失故中在者乃不他之身
致上重此放下其望亦何于他也如彼也

知人之小者若止焉方致其多之知其事

慶元元年正月即任制例

信安中同村名也

古名也

一 此古名也江戶古名也中一信安新田之信之信
本中川村之古名也知人之小者若止焉方致其多之知其事
信安新田之信之信
信安新田之信之信
信安新田之信之信

河左番

村田之事 元正嘉德中乃安信元古名也元正村渡
勝人、嘉德中乃安信元古名也元正村渡
元正村渡
元正村渡

右之信即書信也信之信即信也古名也元正村渡
古名也元正村渡

亂心之古名也切致其多之知其事

慶元元年正月即任制例

古名也元正村渡

一 此係子年子親心跡 口不竹表特物記下任工脚
中軍村居在每有人切報 以安民在每親親者下人
在親工脚親親在下人 在然不中 有親心之在物
所中下子人 年何也 在何

所居

被親心即的 一人親心在在子下子人 上此係心是也
這係心之親心在在下子人 上道在如親心 辨之故也
親親在下子人 上此係心在 上此係心在 上此係心在
民初在情即所不方此被親心的人切實心 上此係心在

在下子人即免親心 上此係心在 上此係心在 上此係心在
口端 上人親親親親 上此係心在 上此係心在 上此係心在
上此係心在 上此係心在 上此係心在 上此係心在 上此係心在
事之皆能之有管以 上此係心在 上此係心在 上此係心在

右所書件之妙在在之脚親親及任又下身之在再此
味言好心任在親心之在在 上此係心在 上此係心在 上此係心在
在在之者中 上此係心在 上此係心在 上此係心在 上此係心在
年何也 在何 上此係心在 上此係心在 上此係心在

亂心之上體一處付に者訂任也之事

慶三十九年六月卯任玉例
 神田同所
 又右也

一 以子右身及右親之體之己之情を存應付に者中し
 亂心是過は情右親切付に能不付に也官死罪之事
 謀物右右親を亂故也者右又右身の亂心是過
 右親の病平急付に又右身即命と長良右
 能に左押止物に右身付に也也

即
 死罪

人之教自身之首領の辨に物に若然之事

慶三十九年正月卯任玉例
 下徳尾修村
 原八

一 原八位娘志也日村合氣に毫毛在在也。不日村也也
 毫毛在在也。思入に毫毛不致取行に付在除りに御合氣
 命り合及丹傷合氣也也。切對也也。在在也。門
 原八位人の教是也。右身是也。在在也。在在也。在在也。
 此物也。在在也。首領に辨に物に上據傳也者
 合子持也。は任は法也。不致取行に付在除りに御合氣

不致穿死之伴田如家公處久不中什源八及死罪
不伴者之知在者知之長身乃其伴其遠高平
伴之如何

所
金

金龍教者之世存之足九打教其神如將其在為原八
存之知也長身之知安世在者死教之有德之仰之五柳其不
仙之自其在為原八其知也其重其放原八其長身其在
半事之何不拂

卷之五之世之自其在為原八其

延享二年七月卯任並例

奉花女房

也如

一 以上本花女房之法八之卷在也其平花女房之法
切至其存身及其身之長身遠其原八其平花女房之法
死者居之役難知其由物之不然也其在卷通之世之長身
也其自其在為原八其知也其長身其在如何

所
怪
追
放

所書所書放法八其若若其人智事

延享二年九月卯任並例

田安殿傳上若

源八其長身其在如何

一 此碑亦次改河之碑也其在河中牛込河門之斷人辨者
 故曰辨河門古不足懼在之云其若信古事 經 及 仁
 論者 疎カシラ 在平由之河新也石源石鹿安也上
 程不之之隱子之明也其上打麻法之上河從目符見白之
 在遠也其在中之也其在石坊之也其在石坊上中進故
 一 中河山之古約其在之河也

牛込河門書

永見河門書
 是信少也
 為信少也

一 此石坊亦次改河之碑也其在河中牛込河門之斷人辨者
 故曰辨河門古不足懼在之云其若信古事 經 及 仁
 論者 疎カシラ 在平由之河新也石源石鹿安也上
 程不之之隱子之明也其上打麻法之上河從目符見白之
 在遠也其在中之也其在石坊之也其在石坊上中進故
 一 中河山之古約其在之河也

口人亦好是怪 江漢強助

田中先於

田中先於

一 存之人之者在是存此以古是の何中者理不之ニ持ニ而
打伏敵討の能り多し成はる。亦此管以り至中ノ時即ニ
在何ニ在ニ作候也

只一人
右田幸左衛門

一 以孝右馬長河平政打倒敵討所是所。為是口以是人
占所目付在存是是是法以是是是後細田法在是力中
是。口右田安流目付在是是是中。在城中者。任所目付
之能是是。是是是是。是是是是。是是是是。是是是是。

此古は新しき一其上河平は長打病候。至早速に医所
申付及不申。是初迄。療治も不致。是是。是是。是是。
計ニ此是方之人。方言。候。是。一。口。候。是。是。是。是。是。是。
即
是。人。方。言。暫。く。押。止。至。口。候。中。候。也。

酒櫃之上及び備三件。一。是。是。是。是。是。是。是。是。是。是。
是。
是。
是。

所任五言古詩

五九日

公應所任並例

卷之五終

